

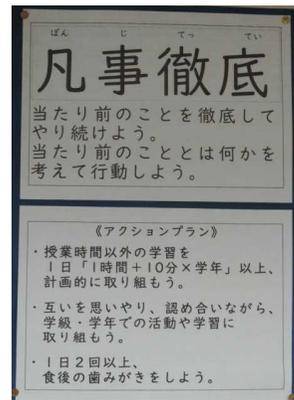
学年だより

スクラム

令和2年10月1日発行
第8号
大門中学校 第1学年

凡事徹底

平凡を非凡に努める



教室の前面に「凡事徹底 当たり前のことを徹底してやり遂げよう。当たり前のこととは何かを考えて行動しよう。」と記された掲示物があります。(左写真)

「凡事徹底」とは、ある企業の創業者、鍵山秀三郎さんが唱えた考え方で、「当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる」「ちょっとした小さな積み重ねが、人生の中で大きな差を生む」という意味だそうです。

鍵山さんは、具体的な「凡事」として、「あいさつ」・「掃除」・「整理整頓」を挙げています。経営の神様といわれた松下幸之助さん

も、企業を訪問した時、この三つを見てその企業がうまくいっているかどうかを判断したそうです。

米国のある組織の教訓に「ベッドを整えなさい」というのがあります。そこでは、毎朝5分のベッドメイキングを徹底的に指導されます。このことを通じ、「人生における小さなことの大切さ」、「小さな成功は次なる成功の連鎖につながることを学ぶそうです。

大門中学校では、生徒会が「県下一あいさつ運動」を展開しています。先月、環境委員会では、「大中三ヶ条週間」を設け、美化運動を行っていました。

先日、廊下ですれ違った3年生の笑顔のあいさつにより、清々しい気持ちで授業に向かうことができました。このあいさつの背景には、「周囲の人々に対する素直な気持ちの積み重ねがある」のだらうと思いました。

1年生でも、簡単な予習を積み重ね、学びの楽しさを感じている生徒がいます。部活動であれ、学級活動であれ、「凡事徹底」し、非凡な力を付けてもらいたいと思います。



10月の行事

5日(月)中間考査(理社英)	15日(木)県中教研西部地区大会
6日(火)中間考査(数国)	(午後放課)
12日(月)生徒会委員会	28日(水)いのちの教育講演会
	30日(金)後期生徒会役員選挙



総合的な学習の時間「人とのかかわりの中で」



2学期の「総合的な学習の時間」では、「人とのかかわりの中で」というテーマで大門中の歴史と伝統を調査し、まとめ、発表する学習を進めています。学習の手始めに、9月9日、本校の卒業生である福本先生が「大門中学校50年の歩み」と題して講話をされました。翌週の9月16日、丹羽校長先生が、「大門中学校50年に際して—ふるさと(母校)について学ぼう—」と題し、自身の体験に、この50年間の日本が発展した流れを交え講話をしてくださいました。

講話のあと、生徒は個人テーマに沿って、家族や地域の方への取材を行い、現在、その成果を発表しようとまとめているところです。取材に応じていただいた多くの方々に感謝を申し上げます。

講話の感想

- ◎ 相撲体操は、大門中ができた年から続いていて、伝統が次の世代に受け継がれているのは、本当にすごいことだと思いました。福本先生から大門中のことを聞き、大門中出身のお父さん、お兄ちゃんからもっと聞きたいと思いました。
- ◎ 福本先生の講話で、校歌や校舎、校章が以前と変わったこと、その中で、相撲体操など、伝統として残っていることもあるのが印象的でした。写生大会で、学校の木を描きます。その木は、50年間、変わったことも、変わっていないことも全て見ているんだなと思いました。
- ◎ 校長先生の話聞いて、「大人になってもふるさとを大切にしよう」と思いました。三年に一度、同窓会を開いておられる話を聞き、ふるさとや母校への気持ちが伝わったからです。
- ◎ 校長先生から、中学時代の先生との思い出話を聞きました。その先生のことを話せるのは、すごく心に残っている証拠だと思います。私も、中学校生活の中で、すてきな先生とのたくさんの思い出をつくりたいです。また、友達を大切に、後悔しないようにしたいです。
- ◎ 大門中50年の歴史の中には、東京オリンピックや大阪万博など、平和の象徴である行事が行われていたそうです。この学校にも、平和への願いがあると感じました。校長先生の話から、学校の歴史を知ることだけでなく、時代背景を見ることも大事だと思いました。
- ◎ 校長先生の話聞いて、ふるさとや仲間たちが本当に好きだということが伝わってきました。「中学校で友達を思いやることを学んだ」と言われて、仲のよい友達でも、思いやるのが大切だと分かりました。
- ◎ 大門中学校から13, 179人も卒業したと聞いて、やっぱり50周年ってすごいなと思いました。校長先生は、大人になっても母校やふるさとはずっと覚えていると話されたので、今を大切に過ごそうと思いました。

